

## 報道資料

© 2013 畑事務所・Studio Ghibli・NDHDMTK



日本のアニメーションに遺したもの

TAKAHATA ISAO  
A LEGEND IN JAPANESE ANIMATION

# 高畑 勲展

2021年  
9/18 (土)  
↓  
11/14 (日)

東京、岡山、福岡で開催され、大きな反響を呼んだ高畑勲展が、いよいよ新潟にやってきます。高畑勲（1935～2018）、は、1960年代から半世紀にわたって日本のアニメーションを牽引し続けたアニメーション映画監督です。本展では、高畑の演出術に注目し、制作ノートや絵コンテなどの未公開資料も紹介しながら、その豊穡な作品世界の秘密に迫ります。

## 展覧会概要

名称	高畑勲展 日本のアニメーションに遺したもの		
会期	2021年9月18日(土)～11月14日(日)		
時間	9:00～17:00(チケットの販売は16:30まで)		
休館日	月曜日(ただし、9月20日(月)は開館)		
会場	新潟県立近代美術館		
主催	新潟県立近代美術館、UX新潟テレビ21、高畑勲展新潟実行委員会		
共催	NHK新潟放送局		
後援	長岡市、長岡市教育委員会、新潟日報社、長岡新聞社、エフエムラジオ新潟、FMながおか 80.7		
企画協力	スタジオジブリ	協力	(公財)徳間記念アニメーション文化財団
制作協力	NHKプロモーション	協賛	パルシステム生活協同組合連合会

料金	当日券 一般 1,500円(1,300円)／大・高生 1,300円(1,100円)
	前売券 一般 1,300円
	*中学生以下無料 * ( )内は有料 20名以上の団体料金

前売券の販売は、県内プレイガイド、コンビニエンスストア各社（JTB レジャーチケット商品番号：0256847）で、7月18日から9月17日まで。詳細はお問合せください。

問い合わせ先：新潟県立近代美術館 学芸課(平石、濱田、宮下、飯田、金澤)  
〒940-2083 長岡市千秋3丁目 278-14 TEL 0258-28-4111

\*新型コロナウイルス感染症の防止のため、ご来館の際はマスク着用をお願いいたします。  
会場内混雑の際は、一時的に入場制限を行う場合があります。

## 開催趣旨

絵を描かない監督が、どのようにして歴史に残るアニメーションをつくったのか。

長編初監督作品となった「太陽の王子 ホルスの大冒険」(1968)で、大人の鑑賞にたえる壮大なスケールの映像世界を作り上げた高畑は、アニメーションにおける新しい表現領域をつぎつぎに開拓していきました。70年代には、「アルプスの少女ハイジ」(1974)や「赤毛のアン」(1979)などのテレビ名作シリーズで、日常生活を丹念に描写する演出手法を通して、ファンタジーとは一線を画した豊かな人間ドラマの形を完成させます。80年代以降は、物語の舞台を日本に移し、「じゃリン子チエ」(1981)、「火垂るの墓」(1988)、「平成狸合戦ぽんぽこ」(1994)など、日本の風土や庶民生活のリアリティーを表現するとともに、日本人の戦中・戦後の経験を現在から問い直すような力作を次々に発表します。遺作となった「かぐや姫の物語」(2013)ではスケッチの線を生かした描法に挑み、従来のセル画様式を乗り越える表現上の革新を達成しました。

本展では、常に今日的なテーマを模索し、新しい表現方法を追求した高畑の演出術に注目し、制作ノートや絵コンテなどの未公開資料も紹介しながら、その多面的な作品世界の秘密に迫ります。



## 高畑 勲(1935~2018)

1935年 三重県生まれ。岡山県で育つ

1959年 東京大学仏文学科卒業。同年東映動画(現・東映アニメーション)に入社

1968年 劇場用長編初演出(監督)となる『太陽の王子 ホルスの大冒険』を完成

1974年 テレビシリーズ『アルプスの少女ハイジ』全話を演出。その後、『母をたずねて三千里』(1976)、『赤毛のアン』(1979)全話演出を手がける

1984年 宮崎駿の『風の谷のナウシカ』でプロデューサーを務める

1985年 スタジオジブリ設立に参加

「日本人が日本のアニメーションを作る、とはどういうことか、いつも考えていました。」

## 高畑 勲 主な作品

1. 「狼少年ケン」(1963年~1965年)
2. 「太陽の王子 ホルスの大冒険」(1968年)
3. 「パンダコパンダ」(1972年)
4. 「アルプスの少女ハイジ」(1974年)
5. 「母をたずねて三千里」(1976年)
6. 「未来少年コナン」第9話、第10話(1978年)
7. 「赤毛のアン」(1979年)
8. 「じゃリン子チエ」(1981年)
9. 「セロ弾きのゴーシュ」(1982年)
10. 「柳川掘割物語」(1987年)
11. 「火垂るの墓」(1988年)
12. 「おもひでぽろぽろ」(1991年)
13. 「平成狸合戦ぽんぽこ」(1994年)
14. 「ホーホケキョ となりの山田くん」(1999年)
15. 「かぐや姫の物語」(2013年)



「火垂るの墓」セル付き背景画 © 野坂昭如/新潮社, 1988



「平成狸合戦ぽんぽこ」セル付き背景画  
© 1994 畑事務所・Studio Ghibli・NH

### 第1章 出発点

高畑勲氏は1959年に東映映画(現・東映アニメーション)に入社し、アニメーションの演出家を目指します。演出助手時代に手がけた「安寿と厨子王丸」(1961)では、新発見の絵コンテをもとに若き日の高畑氏が創造したシーンを分析します。「太陽の王子 ホルスの大冒険」(1968)では、集団制作の方法と作品世界を構築していくプロセスに光を当て、なぜこの作品が日本のアニメーション史において画期的であったかを明らかにします。



「太陽の王子 ホルスの大冒険」  
ヒルダ(色紙) © 東映

### 第2章 日常生活のよろこび

東映映画を去った高畑氏は、「アルプスの少女ハイジ」(1974)にはじまる一連のTVの名作シリーズで新境地を切り拓きます。毎週一話を完成させなければならない時間的制約にも拘わらず表現上の工夫を凝らし、日常生活を丹念に描写することで、生き生きとした人間ドラマを創造したのです。宮崎駿、小田部羊一、近藤喜文、井岡雅宏、椋尾篁らとのチームワークを絵コンテ、レイアウト、背景画などによって検証し、高畑演出の秘密に迫ります。



「赤毛のアン」セル付き背景画  
© NIPPON ANIMATION CO., LTD.  
“Anne of Green Gables”™ AGGLA

### 第3章 日本文化への眼差し

映画「じゃりん子チエ」(1981)以降は、日本の風土や庶民の生活のリアリティを活写します。その取り組みは、1985年に設立参画したスタジオジブリにおいて、「火垂るの墓」(1988)、「おもひでぽろぽろ」(1991)、「平成狸合戦ぽんぽこ」(1994)という日本の現代史に注目した作品群に結実します。日本人の戦中・戦後の経験を現代と地続きのものとして語り直す話法の創造と、「里山」というテーマの展開に注目します。



「おもひでぽろぽろ」セル付き背景画  
© 1991 岡本 暎・刀根夕子・Studio Ghibli・NH

### 第4章 スケッチの躍動

90年代には絵巻物研究に没頭して日本の視覚文化の伝統を掘り起こし、人物と背景が一体化したアニメーションの新しい表現スタイルを模索し続けました。その成果は「ホーホケキョ となりの山田くん」(1999)と「かぐや姫の物語」(2013)に結実します。手書きの線を生かした水彩画風の描法に挑み、従来のセル様式とは一線を画した表現を達成しました。美術への深い知識に裏付けられた高畑のイメージの錬金術を紐解きます。



「かぐや姫の物語」  
© 2013 畑事務所・Studio Ghibli・NDHDMTK

## 関連イベント

### 1. 【記念講演会】

「高畑勲の革新的アニメーション演出術」

講師：叶精二氏(映像研究家、亜細亜大学・女子美術大学講師)

9月19日(日)14:00～15:30

### 2. 【映画鑑賞会】

「おもひでぽろぽろ」(1991年/119分)

9月20日(月・祝)14:00～

「ホーホケキョ となりの山田くん」(1999年/104分)

10月2日(土)14:00～

「かぐや姫の物語」(2013年/137分)

10月16日(土)10:00～/14:00～



「ホーホケキョ となりの山田くん」  
© 1999 いしいひさいち・畑事務所・Studio Ghibli・NHD

◆当館講堂にて/定員 80 名/要事前申込/参加無料/要観覧券(半券可)

◆申込方法：電話またはメール(定員になり次第、締め切ります)

●電話：0258-28-4111(9:00～16:00 土日受付ます)

参加希望イベントの開催日・イベント名・氏名・電話番号をお伝えください。

●メールアドレス：ngt503040@pref.niigata.lg.jp

件名に、「記念講演会 9月19日」または「映画鑑賞会〇月〇日 \*『かぐや姫の物語』の場合は時間も(午前 または 午後)」と明記してください。

メール本文に氏名・電話番号を記入してください。

近代美術館からの返信メールをもって受付完了のお知らせとなります。

◆新型コロナウイルス感染症の状況により、イベントの実施内容を変更または中止する場合がございます。最新の情報は新潟県立近代美術館 HP やツイッター等をご確認ください。

## 音声ガイド・図録・グッズ

### 1. 音声ガイド:

高畑勲が日本のアニメーションに起こした革命とは。時代を共にした仲間たちのインタビューを交えてご案内します。案内役は俳優の中川大志さん。新潟展ではアプリによる音声ガイドをご提供しています。有償ダウンロードの方法など、詳しくは展覧会公式ホームページをご覧ください。

(アプリ販売価格:610円(税込)) \*会場での音声ガイド機の貸出は行っていません。

### 2. 図録:

作品の企画書や本人のメモ、アニメーターや美術スタッフの数百枚にのぼる絵などを通して、高畑作品の演出術を余すことなく紹介した一冊です。(256ページ/2300円(税込))

### 3. グッズ:

ポストカード、クリアファイル、ノート、しおり、手ぬぐいなど、多くのオリジナルグッズを取りそろえています。



## 広報画像の申込み

広報画像使用申請書(裏面)にてお申し込みください。ご使用の際は下記のガイドラインを必ずお守りください。

### 【素材貸出・使用時のガイドライン】

- ◆本画像の使用は本展を紹介する場合(本展会期終了まで)に限ります。尚、会期終了後は、速やかに破棄してください。
- ◆「展覧会名」、「会場名」、「会期」、「クレジット表記」などの基本情報に関しては、必ずご記載ください。
  - \* 万が一、クレジット表記のルールが守られていない場合については、別途、掲載費用が発生いたします。
- ◆画像は「全図」でご使用ください。その他、「文字を重ねる(文字乗せ)」、「トリミング」など画像の加工・改変・部分での使用はできません。画像使用の際は必ず、【プロモーション用 貸出可能素材】記載の「タイトル」「クレジットなど必要表記事項」をご記載ください。
  - \* 一部、トリミング使用が可能な画像データもございます(リスト内に明記)
- ◆使用画像と基本情報の確認のため、掲載前の原稿(または公開前のテストページ)や映像は下記、担当者まで、必ずお送りください。確認・監修後、お戻しいたします。
  - \* 監修に数日かかることがあります。時間に余裕をもってお申し込みください。
- ◆WEB サイトでご使用の場合には、「無断転載のお断り」を必ず記載の上、必ずコピーガードを行ってください。
  - \* 仮に、本展会期中であっても、「再放送」や「転載」など、二次使用をされる場合にも、別途ご相談・申請が必要です。
- ◆画像掲載・露出の場合には、各画像をそれぞれ、リスト内に明記のクレジットを表記してください。
  - \* 使用クレジットが同じ画像であれば、1画面(ページ)に複数画像を掲載する場合、「同画面(ページ)内に、1カ所の表記でも可」
  - \* 原則、文字の「フォント」や「大きさ」は、特に規定なし。
- ◆画像データは、「jpeg」データでのご提供となりますので、必ずメールアドレスをご記載ください。
- ◆新聞・雑誌などにご掲載いただく際は、「掲載紙・誌を各2部」。WEB の場合は、「ご掲載いただいた URL のご連絡」、また放送に関しては、「同録テープ(ブルーレイや DVD でも可)を1部」ご提出をお願いします。

広報画像の申込先 (新潟県立近代美術館 担当: 宮下、金澤)

〒940-2083 長岡市千秋3丁目 278-14 TEL 0258-28-4112 FAX 0258-28-4115

メールアドレス: kinbi@coral.ocn.ne.jp